

麦 笛

(第58号 令和6年6・7月)

「こむぎ保育園の成り立ち」



(認可設立時の保育園 中央黒の服が前園長 その右隣が現園長)

こむぎ保育園の創設のお話をします。

こむぎ保育園の創設者「土屋多喜栄」氏は、東京都庁の看護師をしていました。3人の子どもができましたが、一番上の子と14歳離れて生まれてきた(1969年9月7日)3番目の子は、小児まひという重い障害を持っていました。母親は仕事を辞めて、アパートを借り、小金井市貫井南町に無認可の保育園をつくります。その後、自宅を改修・法人格を取得し、市からの補助金を得て、安心・安全にお子様を預かることを決め、5年後の1977年(昭和52年)に友好福祉会が設立。30名の0歳から2歳までの認可保育園を設立しました。その後、娘の将来を案じて、山梨県に、重度の身体障害者施設「麦の家」を設立します

保育園は老朽化に伴い、ここ東小金井に移転。2009年頃に園長も交代し、60名定員の「こむぎ保育園」ができました。道を挟んで、前の土地が売りに出されたことをきっかけに、その後108名までの園になり、園庭も購入することができ、1.2歳児の待機児解消のため改修し、現在は118名定員です。

同じ法人の障害者施設「麦の家」と「こむぎ保育園」の名前の由来は、**麦は踏まれれば踏まれる程、強くたくましい麦に育つこと。その麦でできた小麦粉は、パンや麺などあらゆるものに変化でき、人の命を救います。**

「人のために役立つ人間になってほしい」

という思いがこめられた「こむぎ保育園」。

「へこたれない 丈夫な身体をつくる」保育の由来も、少しご理解いただけましたでしょうか？

季節のテーブル係(担当:鹿島 平井 阿弓 大池) 

季節のテーブル係では、毎月季節に合わせた装飾を玄関に飾っています。今年はトランスパレントに力を入れており、さらに玄関が明るくなっています!!色や形が変わるたびに「みてー!」と目を輝かせているお子様達です。5月には各クラスに置いてある観葉植物の土の入れ替えをしました。保育室でも緑を感じられるよう育てています。今後も毎月変わる装飾をお子様と一緒に楽しみ下さい!!

